

1万本の竹灯籠で先祖を迎える

〜えちごせきかわ土沢竹灯籠迎え火〜

8月13日に、旧土沢小学校の庭園で竹灯籠にロソクの火を灯し、先祖の霊を迎えるイベントが行われ、村民や帰省客らが訪れました。

上土沢竹灯籠の会（岡田周一代表・上土沢）が主催、2015年から始まり今年で3015本の手づくり竹灯籠でしたが、年々増加し今年も1万本が設置され、幻想的な世界を作り出しました。

竹灯籠のデザインも増え、花や虫の絵を彫った竹や米沢街道を示す巨大文字、2メー

トル程の竹灯籠による扉も新たに作られました。

また、同時に開催された「竹あかりコンサート」では、篠笛奏者の田村優子さんなどのプロの演奏のほか、地元の方など大勢が出演して会場を盛り上げました。

村上市から訪れた女性は、「はじめて見たけど、すごくきれいで驚いた。松林の中で光る竹灯籠が幻想的でした。来て良かった」と大庭園の松林に再現された米沢街道に感動していました。



盆踊りで地域活性！ 村内各地で夏まつり開催



地元住民やお盆の帰省客らに楽しみの場を提供し、お互いの交流を深めてもらいながら地域を活性化しようと、村内各地で「盆踊り」が行われました。

14日に行われた鮎谷集落の盆踊りには、お盆の帰省客など約150人が集まりました。19時からのカラオケ大会に引き続き、集落センター前の櫓を囲んで、この日のために製作した集落うちわを手で大勢の人が踊りを楽しみました。

太鼓や笛、生唄で演奏するのは、集落の10代、20代の若者たちです。その姿をみて、集落総代の川又忠一さんは「若い人たちが集落を盛りあげてくれて頼もしい。これからも、みんなが楽しみに帰って来れるよう続けていきたい」と盆踊りへの思いを話してくれました。

最後には、扇風機などの景品が当たる抽選会や櫓からの福まきも行われ、子どもからお年寄りまで、楽しいひとときを過ごしていました。

竹水鉄砲で川遊び 〜せきともクラブ夏休みイベント〜

せきともクラブ（放課後子ども教室）では8月2日、夏休みイベントを開催しました。この日は、70人の児童とサポーター13人が参加し、午前中からの時間拡大で行われました。

村民会館に集まった児童たちは、サポーターのみなさんに教えてもらいながら、竹で水鉄砲を作り、下川口の河川敷へ移動。班ごとに道具をまとめると川へ走り出しました。作った水鉄砲で遊んだり、網で魚やエビを捕まえたりと楽しい時間を過ごしました。

渡邊陽斗くん（4年・上関）は、「はじめて水鉄砲を作ったけど、簡単に作れた。竹があれば家でも作れそうなので、作って遊びに使いたい。川は気持ちいい」と水鉄砲のうち合いを楽しんでいました。

十分に遊んだ児童たちは村民会館に戻り、食生活改善推進員のみなさんが作ってくれた豚丼とサラダをモリモリ食べ、遊びで疲れた体力を回復させました。



九ヶ谷コミュニティ 宝くじ助成で活動備品を整備



九ヶ谷コミュニティでは、宝くじの助成を受けて活動備品を整備。エアコン3台を九ヶ谷地区ふるさと会館に備え付けました。

宝くじの助成は、(一財)自治総合センターが行っている宝くじの社会貢献広報事業。地域社会の健全な発展と住民の福祉向上を目的として、地域で行う事業または活動に必要な施設・設備の整備等への助成をしています。これまでもさまざまなコミュニティ活動を助成しています。



川遊びの楽しさを伝える!

～タランペクラブ夏の陣～

8月12日、タランペクラブ夏の陣(加藤克徳代表・鮎谷)が鮎谷橋下の大石川で行われ、ふるさとに帰省中の親子づれなど、県内外から50人が参加しました。

参加した子どもたちは、虫や魚を捕まえるとマリニピア日本海のスタッフにかけより質問し、説明を興味深く聞いていました。当日は、タランペクラブのメンバーが30cmを超えるイワナを釣り上げ、それを見た子どもたちは大興奮でした。

また、青竹で作るハンバーグや羽釜での炊飯も行われ、おいしく出来た料理に参加者も大満足でした。いところ参加した小学生の五十嵐希夢さん(5年・上川口)は、「川遊びが楽しかった。自分でたね詰めをしたハンバーグもおいしかった」と話してくれました。



8月7日に渡邊邸前を出発した一行は、30度を超える猛暑の日や、雨が降る悪天候の中、お互いに励まし合い、サポーターとして参加してくれたたりハビリテーション大学の学生、自衛隊員に支えられながら、歩き続けました。

8月11日、予定より3時間遅れの午後8時、周りも暗くなり、心配する父母らがゴールの渡邊邸前で待っているのか、かけ声とともに元気に子どもたちが現れました。4日ぶりにたくましくなった我が子の姿を見てお母さんの目には、

関川村の小中学生18人が、村内37kmと越後米沢街道64kmを4泊5日で歩く「第2回関川子どもチャレンジ100」に挑戦しました。

100km歩く冒険を通して、子どもたちが自分の可能性に挑戦し、連帯感、達成感等を味わい、協調性や頑張る力、信頼感などを育んでもらおうと、今年度は教育委員会が企画して実施しました。

泣きながらでもいっしょにゴールしよう 〜第2回関川子どもチャレンジ100〜



涙が溢れていました。班のリーダーを務めた岩崎堅さん(6年・高田)は、「100kmを歩くのは大変だったけど、みんなと歩けば1人でできないこともできると思っただ。これから苦しいことがあってもみんなと協力してやり抜きたい」と感想を発表しました。

達成感あふれる閉会セレモニーは、感動に包まれました。